

毎年5月20日は「石見神楽の日」！

市では、石見神楽を活用したまちづくりの推進等を図るため、令和3年5月11日に「石見神楽の日」を制定し、毎年5月20日を「石見神楽の日」としました。

市役所本庁舎に「石見神楽の日」制定記念懸垂幕を掲揚！

「石見神楽の日」制定を記念して、5月20日(木)に懸垂幕掲揚式を開催しました。

小雨が降る中、石見神楽デザインのラッピングタクシーで駆けつけた恵比寿さまや鬼たちも参加して懸垂幕を掲揚しました。



「石見神楽の日」とは

石見神楽の保存や活用に向けた将来ビジョンの検討を行なった市民グループからの提言を機に、石見神楽を活用したまちづくりの推進と、地域への誇りと愛着の醸成を目的として「石見神楽の日」を制定しました。石見地域で伝承される神楽をテーマにしたストーリー「神々や鬼たちが躍動する神話の世界～石見地域で伝承される神楽～」が日本遺産に認定された日（令和元年5月20日）にあわせ、5月20日を「石見神楽の日」としました。

【問い合わせ先】 市観光交流課 ☎ 31-0331

日本遺産のまち益田の歩き方

第11回

泉光寺

平成16（2004）年に三宅御土居跡が七尾城跡とともに益田氏城館跡として国史跡に指定されました。これを受けて泉光寺は、市の「歴史を活かしたまちづくり計画」の方針を尊重し移転を決断、平成23

年、本名は木村だといわれています。名手で剛力だったことから呼ばれた名で、本名は木村だといわれています。鬼村は弓の名手です。

由緒に創建の経緯が次のように記されています。関ヶ原の合戦後に益田氏が益田を去った後、益田に残った旧臣の高橋氏、増野氏、中村氏ら五家が鬼村祐光に「浄土真宗の寺院を創建し、僧侶となって真宗を広めてほしい。そうすればその門徒になる」と依頼しました。三宅御土居の跡には、天正3（1575）年に益田氏が創建した阿弥陀堂があり、益田氏の先祖の「御魂屋」とされています、これをもとに寺院を創建してほしいということです。鬼村祐光は本願寺に参って、十二代門主の准如上人から泉光寺の寺号と釈迦念の法名をもらい、出家しました。鬼村は弓の名手です。

【問い合わせ先】

益田の歴史文化を活かした観光拠点づくり実行委員会
文責：市文化財課 ☎ 31-0623

松龍山泉光寺は、浄土真宗本願寺派の寺院で、現在の所在地は昭和町ですが、かつては現在地から東へ約500mの三宅御土居（三宅町）の地にあつて、その故地を守り続けてきました。



泉光寺

場 昭和町5番5号
石見交通バス各路線のバス
幸町バス停から徒歩5分

（2011）年に移転が完了しました。泉光寺には、県指定文化財の釈迦十六善神像が伝わっています。釈迦如来と普賢菩薩・文殊菩薩、そして十六善神が描かれており、15世紀の作と推定されています。袈衣にある墨書には「十六善神 石州益田勝達寺常住再興良導 于時延宝元年癸丑八月吉日」とあり、もとはかつて染羽町にあった勝達寺が所蔵し、延宝元（1673）年に修復されたことがわかります。勝達寺は、染羽天石勝神社と一体であった寺院ですが、明治時代の神仏分離により廃絶しました。釈迦十六善神像は、その歴史を伝える遺宝の一つです。